

## 「全鍍連」 2025年 12月号 巻頭言

全鍍連青年部会 会長 御船 隆 (株正信 代表取締役)

「全鍍連青年部会を必要とする思い」



この度、前寺内会長より引継ぎ、青年部会会長を拝命いたしました、九州めっき工業組合の御船隆です。まずは、まだまだ未熟な私にこのような重責をお任せいただき、心よりお礼申し上げます。

私たち青年部会は、昨年（2024年）10月に設立され、ようやく一年が経過いたしました。まだ体制の整備や活動方針の具体化は途上にありますが、皆さまのご理解とご協力のもと、一歩ずつ歩みを進めております。

めっき業界には多くの組合に「青年部会」が存在し、それとは別に「表面技術協会」、「日本鍍金協会」など、歴史ある団体も数多く活動しています。複数の団体に加入されている方も多いのではないのでしょうか。私自身もその一人です。では、それらの団体がありながらも、全鍍連青年部会を必要とする理由、そしてその役割とは何でしょうか。

近年、めっき業界に対する取引先からの位置づけは、行政の助言もあり発注者側との対等な関係をようやく築き始め、一昔前に比べると一定の改善が見られます。しかし一方で、個々の企業や集まりでは解決が困難な問題は依然として山積しており、残念ながらそれらの課題に十分対応できず、廃業や事業譲渡を余儀なくされる企業も増えており、組合員数は年々減少しています。このような厳しい時代において、次世代を担う私たちが安定した企業経営を行うためには、自社の課題解決にとどまらず、所属する組合や、業界全体の未来を見据え、悩みや問題を気兼ねなく相談し、活動を通じて切磋琢磨し合える場が必要だと考えます。全鍍連青年部会は、まだ歴史の浅い会です。だからこそ、これまでの慣例やつながりに縛られず、さまざまな垣根を越えて自らの意思で活動できる場を築くことができます。

先日、青年部会から数名、こども霞が関見学デーに参加させて頂きました。会場では手回しの発電機を必死に回しながら、目をキラキラと輝かせ夢中でコインに金めっきをする子供達の姿が印象的でありました。そんな未来を担う子供達の為にも、私たちがいま取り組むべき事は、日本のめっき業界をさらに活気づけて、未来の世代に誇れる産業を築くことだと思います。全国 1,131 社の次世代を担う仲間の皆さまと共にその未来を形にしていきたいと思っております。